夕刊 磐城新聞
一月九日發行
發行所 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

探偵小説の魅力

ユー・エム生

あらゆる文學の中で探偵小説ほど廣い範圍にわたつて、熱心なファンをもつてゐる小説はないであらう。戀愛小説でも時代小説でもそれ〜多數の讀者をもつてはゐるが、讀者層の上から云ふと、戀愛物の讀者には婦人や若い人達が多いとか、時代物は相當年輩の人々に多く讀まれてゐるとか云つた風に、漠然とではあるが讀者の範圍がきまつてゐるやうである

ところが探偵小説となると、年とか、智識や趣味の上などから、讀者の範圍が限定されると云ふことは全然無いのであると云ふが探偵小説は特殊な文學でその面白味が御承知のとほり『謎』を解く興味であつて、むづかしく云へば凡ての人間が持合はせてゐるせん索本能に訴へる――と云ふよりも、むしろ摑みついてゆく不思議な力をもつてゐる從つて一度立派な探偵小説を讀んで、その面白さを味はつた以上、老人であれ少年であれ、必ずや熱心なファンとなるにきまつてゐるからである

その證據には、實に意外なるところに探偵小説のファンがゐるのである。何にも迷惑になる話でもないので書いても差支ひあるまいと思ふが、私の知つた範圍では牧野前内府などがその人である、内府が探偵小説のファンであることを耳にしてゐた私は、或る會合でお目にかゝつたを幸ひ、後からアメリカの作家の新刊物を二三冊たとゞけしておいた。すると小時してわざ〜お使ひで、自分の讀んだのは主として英國のもので、アメリカの探偵小説は初めてだが面白く拜見したと云ふ鄭重な手紙をいたゞいたことである。ドイルあたりまでの興味中心の探偵のロマンスを讀まれた目で、理智で固めた新しいものを讀まれて、ほんたうに面白く思はれたであらうかと、後から考へたことである

他にもまだ澤山あるが、知名の士では前商相の松本蒸治氏も大のファンだと聞いてゐる。それに故人となつた福田徳三博士や、英學者の井上十吉氏なども非常に熱心なファンで、特に井上氏の探偵小説通は有名であつた

かう云つた名士が探偵小説のファンとなつたは、恐らく我々同様面白い探偵小説の魅力に引き入れられたのが動機、それがつい病みつきとなつてしまつたものであらう。そこがつまり探偵小説の讀者層に境界がないと云ふ所以である

尤も日本の探偵文學はまだ年が若く、從つて面白い探偵小説も澤山出てゐないので、自然、他の小説から見ると讀者の範圍が廣く深い割に數は少いであらうが外國の探てい小説の流行を見てゐると、日本でも遠からず探てい小説全盛の時代が出現するのではないかと思はれる

探てい小説は高度の機械文明の發達と並行すると云はれてゐる。現にアメリカの如きは、毎週毎五冊の新刊物が賣り出されて、探てい小説をおいて大衆讀物なしと云つた程の流行振りである。日本にも今にさうした日が來るであらうことを私は期待してゐる

折にふれて

大崎銀鈴

○泣けばとて返らぬ人と知りながらなほ思ひ來る花咲く頃は
○去り行かば戀しからましそのかみのちかひじ夜のちち色の月
○夢見つつ泪の日日を送りたり空しくもまた春はおとづる

雜詠

根本正一

○夕ざれば磐城三坂の雜木原に炭燒きの灯のかなしくともれる
○雜木原きりはらはれてあらはなる權現堂のかげのさみしさ
○埋れる雪の峽間の道そひに滾々と湧き淸水ながるる

童話……サアベル

阿部頼俊

二

信太がこの時、テエブルの下から、はひ出して、のぞいて見ますと、仁王さまのやうなお巡りさんは、だんだんむづかしいかほを、ニコニコし始めたかと思ふと、やがて大きな口をあけて笑ひ出しました。そして太鼓のやうにふとつたおなかをたゝきながら、まつしろいひげをひねりひねり、あつちの方へ消えてゆきました

信太と市郎はやつと安心して、自分達の失敗を恥かしく思ひ、その日は、誰にも言はないでおかうと、いひ合はしました

次の日の夕方になりますと、信太と市郎は、昨日の失敗をケロリと忘れてしまつて、同じ様に、市郎のお家のまへで

『夕やけ小やけ、あした天氣になアれ!』

と赤い夕やけの空に、下駄を高くはふりなげて、あそんでゐますと

『こらッ!』

と、大きなわれ鐘の樣な聲と一しよに、二人は、肩をにぎりしめられましたので、おどろいてふりむいてみますと

『びつくりしたかい』

と昨日のお巡りさんが、ニコニコして立つてゐますので

『あッ!』

と、二人は逃げやうとしましたが、お巡りさんの大きな手は、シッカリ二人の肩をおさへましたので、信太と市郎は『もう交番につれていかれんな』と思つて、ブルブルふるへ出しました

……×……

江名水道成（其ノ二）

珠雲　小野務平

協同元是萬家榮
逐歳諸般事業成
昨築港灣安海客
今開水路利民生

拈華微笑

松が撤れたと思つたら今度はあと半月で舊の大晦日。在かたでは本當の決算期、慌だしい世の中だ

春の馬車

島田忠夫

さくら　さくら　よ
花ふぶき
さくらの路に
乘りすてた
春の馬車には
灯がともる
これは　ベルギー
大使さま
お乘りなされた
春の馬車
銀の洋杖（すてつき）
おかれてる
鐘が鳴る　なる
とほい鐘
さくら　さくら　の
下かげに
馭者もうつとり
夢をみる
あるじ大使は
まだ見えぬ
黒塗り馬車の
金のドア
さくら　さくら　が
埋めかかる

1月10日――△高山樗牛歿る（明治四）△陸軍々用電信隊設置（同一三）△大隈重信侯薨去（大正一一）△最初の愛國機献納式（昭和七）△平第三校で改正選擧法講習會（同九）

講談 黄金魔刄 (45)

高桑義生作　樋口悦也畫

噂（七）

鼠小僧快傳は何處の旦那かと思はれるやうな、りうとした澁い好みの服裝をしてゐた。いゝ男ぶりちやないが、さういふ商人風がしつくりと身について、瘦ぎすな柄が一寸小意氣にさへ見える

『和尚だ』

『快傳だ』

いつの間に入りこんだのか誰も知らない、だが先刻からの話をきいてゐたと見えて、快傳は昂奮してゐる樣子で、つッ立つたまゝ

『人がゐねえと思つて、ずゐぶん勝手な事をいふぢやねえか。面白くもねえ……』

『まあ、此方へ來るがいゝ』

と天嶽は取りなした

勘助と火柱が間をあけたので、快傳はそこへ入ると、それでも頭をさげて

『遲れて申譯ありません。だが……』

『まあいゝ』

『わつしは面白くねえんですよ。いひますとも、仔細あつてあの晩の事は胸にたゝんで置いたけれど、なにもおかしな譯があるんぢやねえんです。首根ッ子をおさへられる迄もなく、かうなつたら、此方からお話し申しあげてエんだ。まるでわつしがあの娘をどうかした樣な話、馬鹿にしてゐらあなんぼり變者のわつしだつて、あんなばけものは御免蒙らあ』

『ばけもの?』

と徳次郎が敏感にきゝとがめた

『何にも知らねえで、いゝ加減な推量はねがひさげにしてえもんだ』

『これ〜、聲がたかい。ゐない者の惡口は誰でもいふ』

と天嶽がおさへた

『はい〜、そりや遲れたのはわつしが惡いけれども、それだつて、なにも醉興で遲れたのぢやねえんです。ほかでもねえが、島原屋の江戸行。あの娘をほんとうにいつしよに連れて行くのか、どうか、それを確めるために……』

誰か笑つたが、快傳はさらにかまはず

『ところが、案外にもそれは本統なんで、娘のために別あつらへの駕籠をつくらせてゐる。道中それで通さうといふんで、駕籠かき人足も手がはり八人チャンときまつてゐる。そのほか支度が大したものだ。だが、おれにはどうも解せねえのだ』

『和尚、和尚』

と徳次郎がよんだ

『お染の話を、あの晩のお前の話しをするといつたが……』

『へゝ、さうです。申します。あの娘は評判の美人――今も今とてその噂、と、とんでもねえ事だ。ありやア、てんでふた目と見られねえ大ばけものなんでさあ!』

さすがに意外だつた。島原屋の小町娘、そのむかしの小野小町、衣通姫にも劣らない――これは勿論誇張したいひ方だが、とにかく誰も認める美人、それをつかまへて、ばけものといふのだから、しかもプン〜怒つてゐるかれの樣子が冗談とは思はれないから、みんな驚いて快傳の顏を見詰めた

『かたりだ、大嘘つきだ。かさねやお岩は醜女ときまつてゐるから驚かねえ。だが、そんな評判の娘が實はかさねお岩に負らねえばけものなんだから、これにはわつしも驚いた――といつて、誰だつて本統にはしなからう。だから、わしは胸にたゝんで話さなかつた。けれども、これッばかりも嘘はねえ。チャンとこの目で、人一倍よく見える鼠目で見たのだ。世間の話なんて相かはらずいゝ加減なんだおれはいろ〜と探つて見た。ところが島原屋の娘を見たのいふ者は、十二三歳までゝ、それからは見た者がねえ。おれは内の者に近づいてたしかめようと思つたが、こいつはうまく行かなかつた。だが恐らく内の者も本統の事を知る者は少からう。それほど秘密にしてゐる、誰にも見せねえ、見えねえ處にしまつてある――わしはそいつをみてしまつた……』

息をもつかぬ快傳の話に一座は耳をかたむけてシインとしてしまつた

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山市外大槻村針生
郡山驛より約三十丁　安積中學より約五丁
郡山腦病院　電話九二五番
院長 醫學士 金森五郎
入院隨時

毎度有難う存じます
レストラント
平富舘

名湯 鹿の湯　湯之網鑛泉
二百餘年の昔、病める鹿が浴してゐたといふ鑛泉!! 昭和の今もこん〜と溢れ湧いて、バスを降りれば半里位の山間に、美しい風光と共に、浴客をお待ちして居ります。
效能……神經衰弱、神經痛、リウマチス 胃腸病、子供の蟲氣、婦人病
○平町から日歸り御入浴もラクです。
○關本驛、磯原驛からバスの便あり。
○關南村役場で、御案内致します。
○自炊なさる諸道具ととのつてゐます。
茨城縣多賀郡關南村湯之網
元湯 松屋旅館　赤津さよ
（女中募集）
◎御滯在、團体は割引致します。

ほねつぎ
桑原柔道整骨院
平町公園下
電話六七四

内臓外科一般
外科花柳病科（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

諸橋外科醫院
電四六四
平町新川町二七
内臓外科
皮膚科
花柳病科
レントゲン線
醫學博士 諸橋鐵彌
醫學士 奥義弘

至急募集
營業擴張の爲
中仕。四、五人 身體健康にして年令二十歳より三十四五歳迄。月收卅圓位
御希望の方は至急御來談下さい
平町田町大通り
金二 清宮運送店

急告
豆タク! 豆タク! 豆タク! の出現
秋のドライヴに、商用に
迅速 市内三〇錢
低廉 市外地 普通料金四割引
鈴木自動車豆タク部
四丁目 電話二一七

鰹魚節と干やなぎは
一 魚問屋
平町四丁目 電二一二二

産科
婦人科
花柳病科
午前宅診
午後往診
入院應需
井坂醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

自轉車。
リヤカー
フタバ商會
平・新川町・橋際

物騷な惡癖が手傳ひ 火藥庫の爆破を企つ

酷使を怨んだ大日本礦雜夫 直に豫審廻付か

六日午前七時頃勿來町酒井字出藏大日本炭礦勿來坑の火藥庫扉前に枯木等を積重ね放火して同火藥庫の爆破を企て未遂に終つた同坑飯場雜役夫茨城縣久慈郡大子町生れ鈴太郎長男前科二犯增田親治(三二)は取調べに對し一切を自白し今九日送檢された

同人は生來、何かと事を好む惡癖あり屢に放火並に竊盜の前科を重ね郷里に容れられぬ所から同坑に働いたが日給六十八錢と而も終日酷使されるのが癪にさはるとて右の暴擧に出でたもので

犯行一切を素直に肯定してをり直ちに豫審廻付となる模樣であると

關田校落成 けふから授業開始

勿來町關田小學校は昨年九月工費二萬圓で新築中だつたが此程竣功、昨八日移轉つた今九日から授業を開始した八教室、應接間、裁縫室つきのモダン平家、校庭は郡南唯一のグラウンドとして利用が多くなる

五十萬の巨費で 江名港擴張改築計劃

測量其他の準備開始

縣內有數の漁港として將來を囑望され更に擴張工事迄計劃されてゐる江名港は內務省中小商港として十一年度より五ケ年繼續、五十萬圓の巨費で改築する事に稍々決定を見て居るので縣でも愈々實設計に着手し、原技手外一名が昨八日來郡約二十日の豫定で測量其他の準備を進めてゐる

小作調停委員任命

郡下で三十八名

今年度小作調停委員は此程任命されたが郡下關係は左記三十八氏である、なほ本區に於ける昨年中の取扱件數は双葉郡上岡村の小作土地先買履行の一件のみであつた

(平)青沼錦太郎 端山軍次 小野榮一 (飯野)伊藤淺之助 (夏井)靑木勇次郎 木田淺次郎 渡邊佐重 (高久)本馬武 (豊間)馬目仙十郎 (磐崎)御代武兵衞 (好間)大平新吉 (赤井)松本金治 (三阪)大竹治右衞門 (植田)古川傳一 (勿來)大平睦西郎 (川部)小野啓平 (草野)高木誠一 (大野)小野齊太郎 (下小川)太森又重 (錦)志賀傳造 (神谷)志賀庄三郎 (川前)佐久間留藏 (泉)古口浦之介 (永戸)阿部佐平 (玉輪)阿部友睦 (入遠野)上遠野文八 (鹿島)荒川忠治 (渡邊)大平彌市郎 澤田正海 (四倉)鈴木克哉 花澤賀有 新妻盛 (大浦)高崎乘次郎 (田人)逸見光治 緑川幾貞 (荷路夫)緑川秀男 (貝泊)蛭田千代之助 (石住)小澤松太郎

植電定時株主總會 配當年七分

植田電氣會社株主總會は二十日午前九時から開くが配當年七分であると

小智能を—總動員して 選擧肅正運動

平町各小學校の計劃決定

昨報—第二次選擧肅正運動に關し平町各小學校では前回同樣、選肅に關する綴方、書方、圖畫を見童に作成せしめ、これを各校內に展覽した後家庭に回覧叉圖畫、書方の優秀作品はこれを町內要所又は投票所入口、控所等に掲出することになる模樣である

大量求人に現れた 蠶糸業界の活況

平職紹大童の斡旋

昨春來の驚異的糸價昂騰による製糸界の活況により製糸女工の求人數が最近頻に增加してゐる、平職業紹介所の去月中の統計を見ても求人數は

男八四 女一、五八三

計一、六六七名

で小學校卒業期を前に製糸女工希望者は前年同月より三百六十五名を增して居る

更に喜ばしい事は最近求人側が紹介所を充分理解して之を利用する結果凶作騷ぎにつけ込んで貧農の畜血を吸ふ惡德周旋人の跋扈を制肘する事で同所でも少からず喜んで居る

尚去月中の求職者は男七十六、女四、計八十名、就職者は男六十一、女二計六十三名

第一新級長 けふ任命式擧行

平第一校では今九日左記第三學期級長任命式を行つた

尋三—一組佐川英一 小齋幹夫 二組鈴木啓吾 中澤渉 三組田代浩康 吉田勤 尋四—一組川崎次男 安藤信 二組鈴木仁 關內正雄 三組吉成方義 高橋恒壽 四組馬目英一 古川勝彦 尋五—一組黑澤範雅 清水俊政 二組鈴木滿男 藤田文朗 三組岡田孝平 武田邦彥 尋六—一組三井眞一 鵜沼功 二組渡邊弘道 小山田俊夫 三組飯島登司 諸橋英二 高一—一組鈴木芳男 伊藤俊夫 二組多田井鶯雄 松崎文吉 高二—一組柴澤松榮 柴田健治 二組江原正太郎 東條正一

落款魔送檢 書類漸く纏まる

茨城縣では警察署長迄騙した落款魔竹田玉齋の取調べは山と積まれた一件書類も漸く纏つたので愈々明後十一日身柄を送檢する事とな

高月學園の今昔

磐中同窓會交歡また聽記 (2) 赤井嶽男

話の序に磐中創始時代の學生氣質を顧ると—當時磐越線こそ未だ出來なかつたが、乘らうと思へば汽車もないわけではなかつた。而も親が大病の時でもなければ敢て之に乘るものにせず大ていは訓盲院の生徒のあたま程ある麥飯のむすびを教科書と一緒に背嚢に雜居させて、雨の日などには裸足でせつせと平氣で三四里位を通つたもんだ。キャラメルを舐めづり作らお体裁に教科書を廣げたは良いが、活動見物の夜ふかしから車中でコクリ〱居睡りをして居る今時の一部生徒諸君には到底出來そうにも無い藝當をやつて來た文字通り質實剛健な人達である、滿五年の永い年月をそうした所謂雪虐風饕の苦楚を嘗めて來た面々が光輝燦然たる超高燭禿頭乃至髮に萬莖の白を植えた羅紗ブラシの樣な頭を竝べての昔語りは世にもインタレスチングなものに相違無く、お互久濶を叙し合ふ春風駘蕩たるカンラ、カラカラの爆笑もさる事乍ら、宴果てゝ朧涙慈々たる頃、何年振りかで會つた舊友と再會を約し、外套の襟深く顋を埋めて右と左に鋪道を行けば三十年の昔に遡る懷ひ出の糸車カラ〱と繰られて一すセンチにもならうと云ふもの

◇

閑話休題、サア叙述は愈々當夜出席者の個々面接に移ろが茲で一番長幼の序と云ふ處を强調し、先づ年長順で行かう

吉田金作氏(明治三十五年第二回)準會員共三十九名の卒業生中三割强に當る十二名が既に幽界に歸して居る程、磐中卒業生としては最も古い組である。雀百迄踊り忘れず、既に知命を出て數年今尚ほ野球の神樣程に地方球界の至寶扱ひを受けてゐる同氏が、その紅顏の揚士時代に於ける野球選手だつたに至つては何と愉快な事ではないか—當時のナイン顏ぶれ

(○印は故人)

投	高岡友衞	
捕	園部嶌汝	
一	山崎治	
二	酒井源司	○
三	森田一郎	
遊	吉田金作	
左	濱島操	
中	花澤甫憂	○
右	加藤木逸郎	○

(此項未完)

林野保護組合長會

石城郡林野保護組合長會議は十四日午前十時から平署會議室に開き郡下十八組合長出席、總會日割決定、其他優良組合員表彰を附議

空の金錢登錄器を盜む

昨八日午前二時頃平町月見町菓子製造業宇田川久三郎方の表雨戸を破り一名の賊侵入レヂスター を盜み出したが中味がないので同家裏手の用水堀に投げ棄てゝ逃走、目下平署で犯人嚴探中

製莚を奬勵して 凶作禍から脫却

平窪村民昨今の精進

自力更生

經濟村たる平窪村は農家の副業として

材料及勞力自給 資本節約 勞力の簡易機械化

等の觀點から冬季農閑季中の最適副業たる製莚を奬勵する事となつた、これは二十圓足らずの小資本で製莚機一台を購入し少しの練習で何人にも出來ると云ふ簡單有利なもので、鰯景氣に沸き立つてゐる各濱に仕向けるので凶作祟りの農村經濟を緩和する事少からず作業者が增加すればこれを共同販賣する事となつてゐる

多年これを行つてゐる同村中平窪相田銀作氏は毎年小名濱方面へ一枚十八錢で賣り、一日八枚位は莚に仕上り、一反歩の藁から大体二百枚位は出來て相當の利益を收めてゐると

傷害致死で五名送檢

村議と雇女が主役の 父無し子死亡事件表面化

平署柴司法主任は昨年十一月から箕輪村大字榊小屋村會議員遠藤好井(三八)同家雇人蛭田フジ(二八)好間村字北好間產婆佐久間コヌイ(五〇)同隅田川炭礦坑夫瀬野儀藏(三二)同人妻シマ(三一)の五名を取調中であつたが近く傷害致死罪として書類を送檢することになつた、事件は昨年八月中フジが父無し子を產んだが世間體をはゞて居るのを遠藤が見兼ね產婆佐久間の仲介で生後僅か四日目の嬰兒に二十圓の養育料を添へて瀬野夫婦に貰れたが嬰兒は榮養不良で八日目に死亡したと云ふのである、平署ではこの嬰兒が遠藤とフジの間に出來た不義の子であり處置に窮した末共謀して故意に榮養不良に陷らしめ厄介拂ひをしたものと認めての送局である

千鳥足で冥途行き

知人方の入營祝酒が過ぎ 丈餘の斷崖から轉落

上遠野村大字瀧字深山口農雲藤辰吉(七〇)は八日午後二時半頃田人村黑田齊藤富太藏方の入營祝酒に醉つて歸途、同村鮫川上流地內の一丈餘の斷崖から眞つさか樣に轉落、頭部を强打してそのまゝ冥途行き

過失致死で 罰金六十圓

好間の炭車乘廻夫

好間村北好間字椎木郡四一安達郡旭村生れ炭礦乘廻夫桑原正芳(二九)は萩原炭礦炭車運轉指揮係りとして昨年十月十日午前一時頃坑內作業中、不注意から連結ピンを外して先頭の一車を逸走せしめ下方に作業中の坑夫佐藤健喜(一九)の腹部を激打して遂に死なせ、此程平區から業務上過失致死罪で略式罰金六十圓に處された

平窪青年校後援幹部會

平窪村靑年學校後援幹部會は九日午後小學校に開き昨年度決算並に本年度豫算を附議

人生悲劇 伜には先立たれ 娘は所在不明

哀れな老父から搜索願

赤井村大字赤井字不動堂農佐久間爲吉(七五)は今から十五年前當時東京にゐた入江富藏(四三)に嫁した娘のキヨノ(三三)が其後京都に轉任して去る七年の暮同市中京區西ノ京野町から手紙が來たきり音信不通な處へ、最近賴みとしてゐた一人息の義常(三五)に先立たれてその日の暮しにも困るので今九日爲吉の妻キス(六七)が平署に出頭、同署の計ひで京都市西陣署に娘の搜索方を願ひ出た

。。。。船戶區長異動 鹿島村大字船戶行政區長は草野春次郎氏の滿期退職によつて後任は四家義氏に決定

日掛けの揉め 表沙汰に

平町長橋町二四遠藤林藏(四五)は昭和四年四月同町一丁目森下庄吉(六二)より金百圓を借り受け一圓の日掛けで返濟する筈だつたが七年八月以來停滯したので森下の妻ミチが清算上日掛帳を持ち歸り殘金七十圓を三十圓にまけて貰つて十圓を支拂つた處、七十圓記入の日掛帳は森下より三丁目某に讓られてあるとの理由で相手を平署に訴へた

。。。飯野村會 九日午前九時から開く

。。。。拂はぬので告訴 平町堂の前鈴木淺之助氏は昨年二月、六月支拂の約束で同町大町大高小太郎に二千圓を貸したが期間に至つて擔保財產を隱匿して支拂はぬの理由で平署に告訴

●● 隔離 平町古鍛冶二九番保夫(二二)君は腸チフスで九日隔離

磐新誤叱府

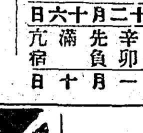
△平署では數日前江名町大字中町漁業白土宗平方から自轉車一台をカツ拂つて逃げやうとした鮮人を捕ねたが、日本語が話せないので調べやうが無く早速この道の達人で鑿に四倉署に轉勤した大賀刑事の應援を求めきのふ調べて貰つた結果、朝鮮黄海道金川郡西北面生れ元坑夫山口信一事鄭開龍(四四)と判つた水際立つた日鮮會話振りに署員達もナールホドネ?

特許ドンコ帳簿 諸帳簿 複寫便箋。仕切

㊫ 魁文堂 電話313番

舊十二月十六日 新一月十日 金曜 辛卯 先負 滿 亢宿

十日 (小名濱測候所調査)
日出 六、四七 月出後 六、一五
日沒 四、四一 月沒前 七、三三
滿潮 前五、四〇 後三、五五
干潮 前一〇、四五 後一一、一五



臨發定鑑稱 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 外事に拘はれば辛勞を增す內に在るが安全▲二黑 かく慮なく衆人と交れば平安なり普請造作凶▲三碧 耐忍すれば大事も成る開店企業吉金談は凶▲四綠 願序を違へず誠實に進めば志望通達す▲五黃 目に見れども手には取りがたき殘念なる日▲六白 丹精の甲斐ありてめを出だすに至る良好日▲七赤 希望ありとも妄りに進む可らず熟慮を要す▲八白 從來の業務もすゐびを來たさんとする兆あり▲九紫 思ひ掛けざる援なかうむる事あり定榮に親しめ

廣告 大和田醫院

電話新設 六三二一番 是非御利用を願ます。 田毎食堂 平町田町藤田女學校隣

夜間 診療 胃腸性病 專門 內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科 (見習看護婦募集) 松村胃腸性病科醫院 (平町南町 電一〇七番)

福島縣平町二丁目 藥品 百貨 西村屋藥舖 藥劑士 鈴木堅助 電話 三番 振替 東京 六、二九九 仙臺 一、二〇一

公債株式賣買 一般證券業務 平町三丁目 電話一一七七 ◎賢明なる諸子は瓦礫の裡より金剛石を ◎優秀株をボロ株中より發見せらるべし 友部株式店

父藤吉儀永々病氣の處藥石効無く四日午前九時死去仕り候に付此段御通知申上げ候

追て葬送の儀は十日午後一時自宅出棺大寶寺に於て佛式相營み可申候

昭和十一年一月六日

男 三井榮一 三井富吉 三井三郎 三井四郎
親戚 三井文吉 久世崇德 谷口フク
總代 柏原幸次郎
友人 井上茂作
總代 小野伊佐治